



【読書】キャラクター「おっほん」

おっほんシート



札幌市立山の手南小学校

読書センターとしての機能

「朝読書活動」

毎日、朝の5分間は朝読書をします。家から持ってきた本など、読みたい本を読んでいます。教室にある「わくわく本棚」は、学期ごとにローテーションし、子どもの興味や関心を持続できるような心がけています。

「図書委員会による読書啓発イベントの開催」

図書委員会では、多くの児童に読書に親しんでもらおうと、様々な企画を実施しています。今年度は、「スタンプラリー」「本宝くじ」などを行い、手作りのしおりをプレゼントするなどして、図書館に足を運んでもらう回数を増やすことができました。

「読み聞かせ」

図書ボランティアによる読み聞かせを月に2回（低学年1回・高学年1回）、おやじの会による

読み聞かせを年に1回行っています。どの子も集中して物語の世界に浸る素敵な時間になっています。



学習センターとしての機能

「授業の内容を豊かに」

各学年の教科の学習や総合的な学習の時間には、興味をもったことや疑問に思ったことを調べて知識を広げたり、学んだことについてさらに理解を深めたりする機会がたくさんあります。事前に学校図書館から関係図書を集めて教室内に掲示したり、寄託図書を手配し、子どもたちが学習の流れの中で適切なタイミングで関係図書に触れることができるようにしたりすることで、子どもたちの意欲を向上させ、学びを深めることができます。

1年生の国語「じどう車くらべ」や3年生の総合「三角山HOT.COM」、4年生「世界にほこる和紙」では、自分たちが調べたいこと（車や植物、伝統工芸など）について、学校図書や寄託図書を子どもたちが自分の興味に合わせて選んで読み、収集した情報をまとめて発表し合っ、学びを深めていました。



情報センターとしての機能

「子どもたちの読書意欲を高める図書館づくり」

図書ボランティアや、図書委員の取組により、学校図書館の中は、季節や授業内容に合わせた本のコーナーや新書紹介コーナーが目立つ場所に設置されています。新鮮な情報が図書館から発信されることで、子どもたちの読書意欲を高めています。



「寄託図書の活用」

本校では、各学年で積極的に寄託図書を活用しています。2年生の国語「おにごっこ」の学習では、いろいろな遊びを紹介している本を多種類、かつ複数本ずつ取り寄せ、子どもの興味に合わせて選択できるようにしました。その中で収集した情報を用いて遊びの企画書を作成し、伝え合う活動を行っていました。また、授業時間のみならず、朝読書の時間や休み時間などにも、自由に読むことができるようにするなどして、子どもたちが主体的に本を手にとって読書に親しむことができるようにしています。